

# **小学校でのCLIL教材**

# **‘How to play baseball in English’**

Chantal Hemmi  
Academic Adviser, British Council, Tokyo



# 背景

- ・ 森村学園
- ・ 横浜の私立学校
- ・ 1910年、森村市左衛門により創設
- ・ 初等部児童数720名
- ・ 6-11才
- ・ 1・2年生：週40分
- ・ 3-6年生：週40分を2回
- ・ ブリティッシュ・カウンシルから2名の講師が派遣されている



# 子どもたちはどのように言語を学習するか？

子どもたちが、考え、問題を解決し、疑問をもち、自分たちの周りにあるものを理解することを最も学ぶのは、彼らが新たに学ぶものとインタラクト（相互作用）するときである。

学びが成功するのは、学習者が指導、支援、大人・教員・メンターの足場があるとき

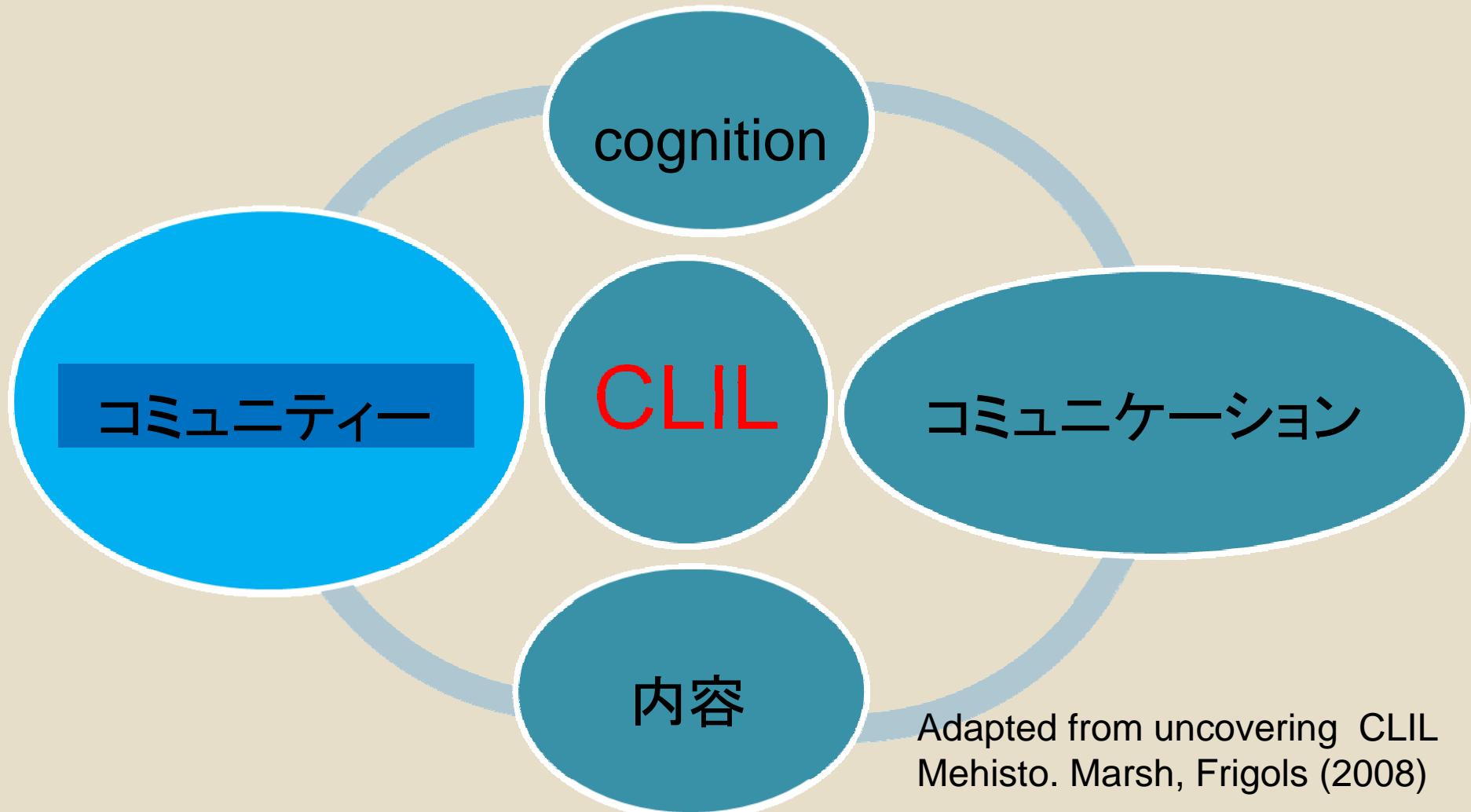
学びは、実際の相互作用、有意義な活動と困難な状況を通して起こる

学びは、学習者が自分たちの生活と目標とする課題の活動を関連させることができたときに起こる。



Hughes, plenary  
Asia TEFL (2006)

# CLILを促進する4つの原則



# なぜ野球とCLIL?

これまでの一連のCLIL実践からのニーズ分析  
(家庭科でのウェルシュ・ケーキ作り).

- ・児童はこれらのセッションを文化的なもの、モチベーションを上げるのに効果的なものと感じた
- ・児童が、「応援の仕方を学びたい」、「体育をしたい」と希望した
- ・担当教員で実践研究者のトム・レドブリーとリチャード・ウィリアムズは、児童のやる気に焦点を当てることが重要と考えた

# 英語で野球の遊び方を教えるための手順

語彙  
vocabulary

- 野球に関する単語を事前に教え、schemaの活性化により使用される借用語への気づきを示す  
•(scaffoldingの準備)
- 野球に関する単語のゲームをする
- 児童が使った言葉のやりとり(run、stop等の野球をする時に自然に出てくる言葉)を記録する

ことばの  
やりとり

- 動作を使って、使われる言葉 が適切かどうかを示すのと同時に、その正しい使い方を示した。
- 児童は、応答と適切なフラッシュカードの写真をマッチさせ、整理のためマッチングとラベル付けを行った
- 動作を使って、他の語彙- run, hit, catch, throw, dropなどを導入した

野球を  
する

- 児童は、英語教員2名と英語を話す日本人の体育教員とともに野球に参加した。
- 体育教員がピッチャーをつとめ、英語教員は児童と一緒に試合に参加し、児童にルールなどについて教えてもらうようにした。

LF **7**

**8** CF

**9** RF

SS **6**

**4** 2B

3B **5**

P **1**

**3** 1B

**2** C























Well  
done!



# Come

# on! **FIGHT!**



**Bad  
luck!**



Never  
mind!



Oh no!



Good  
catch!



Good  
hit!



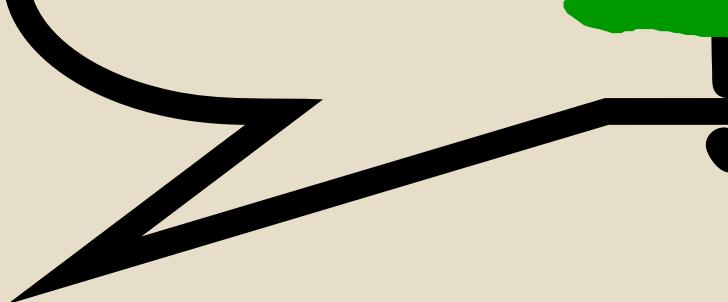
Nice  
throw!

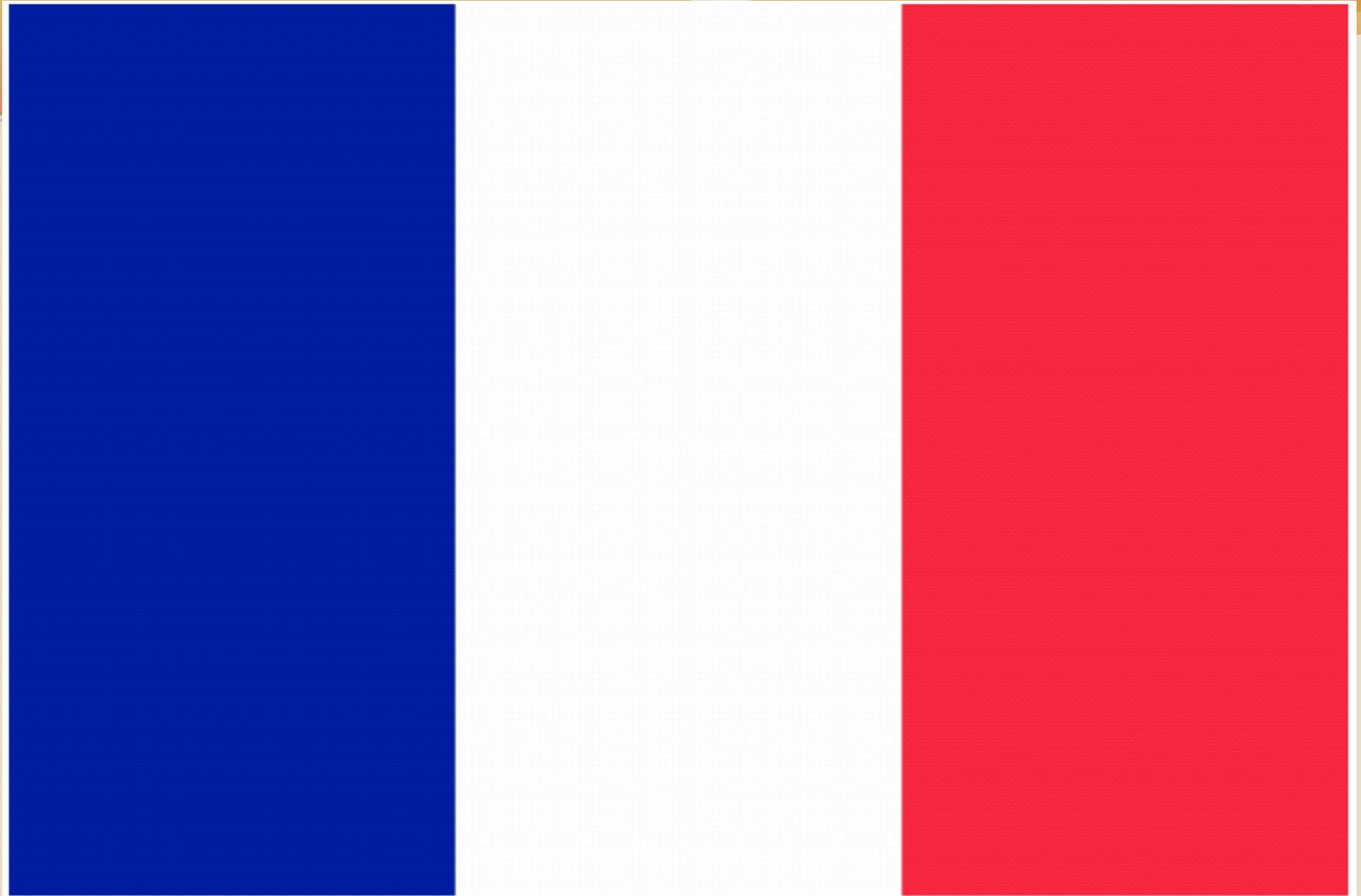


# Sorry!

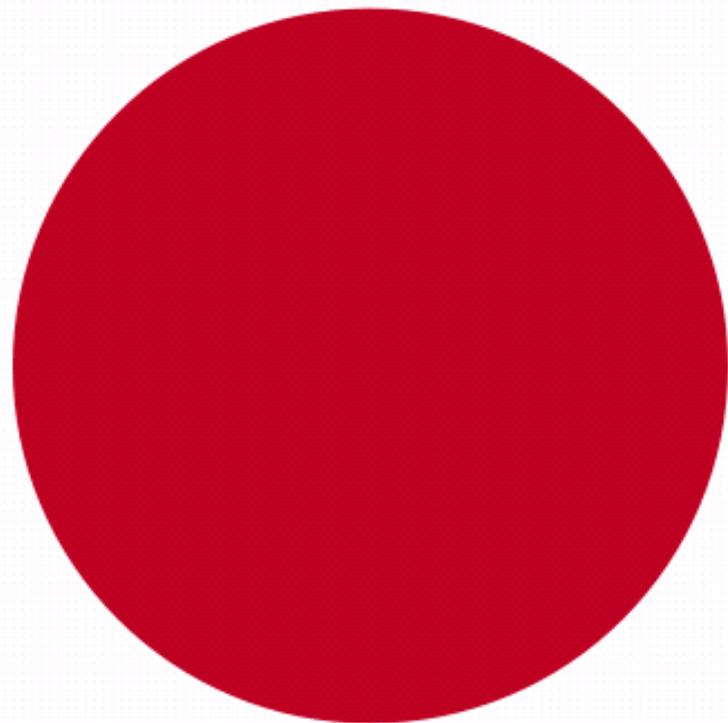


# Nearly



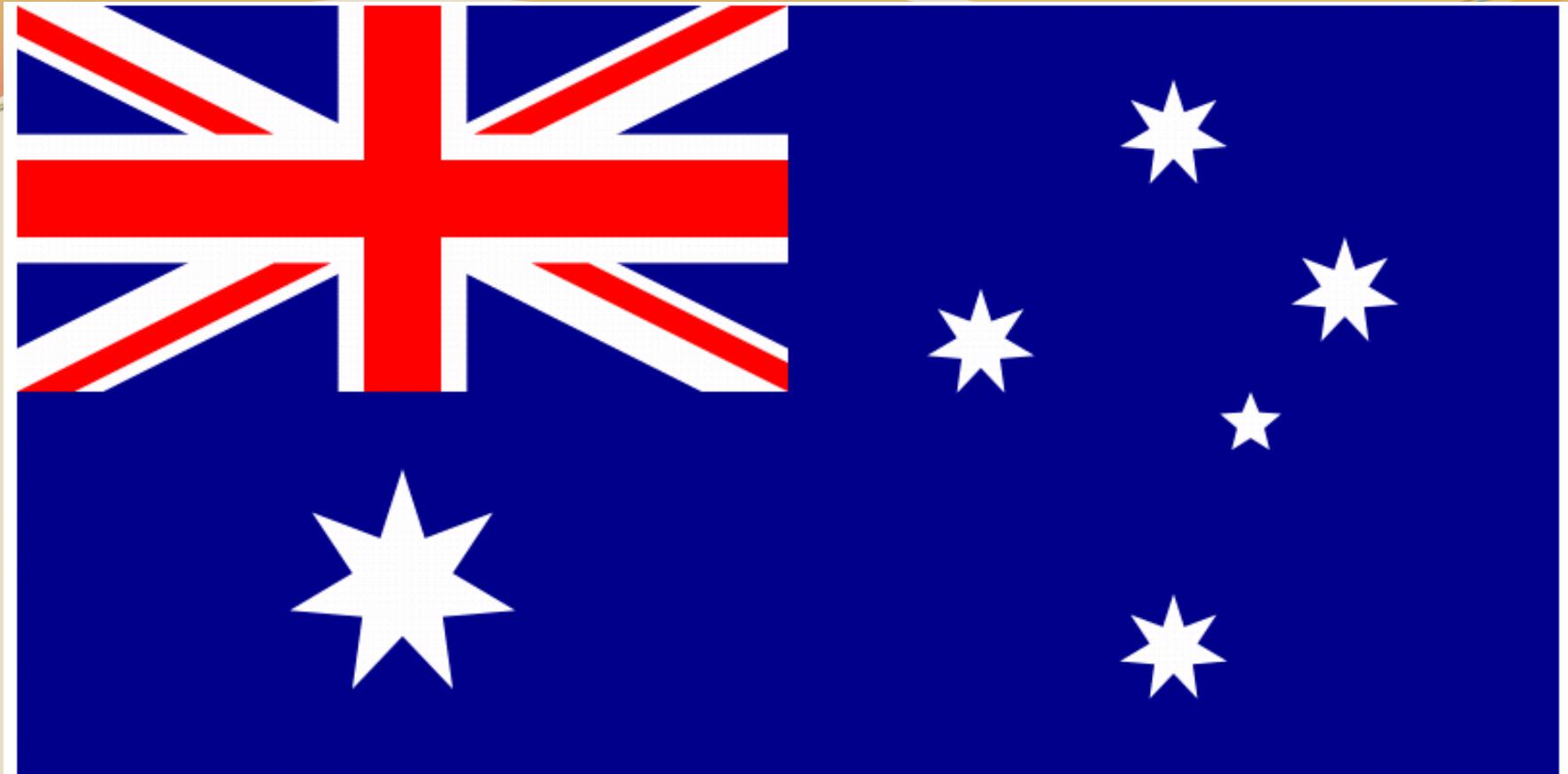






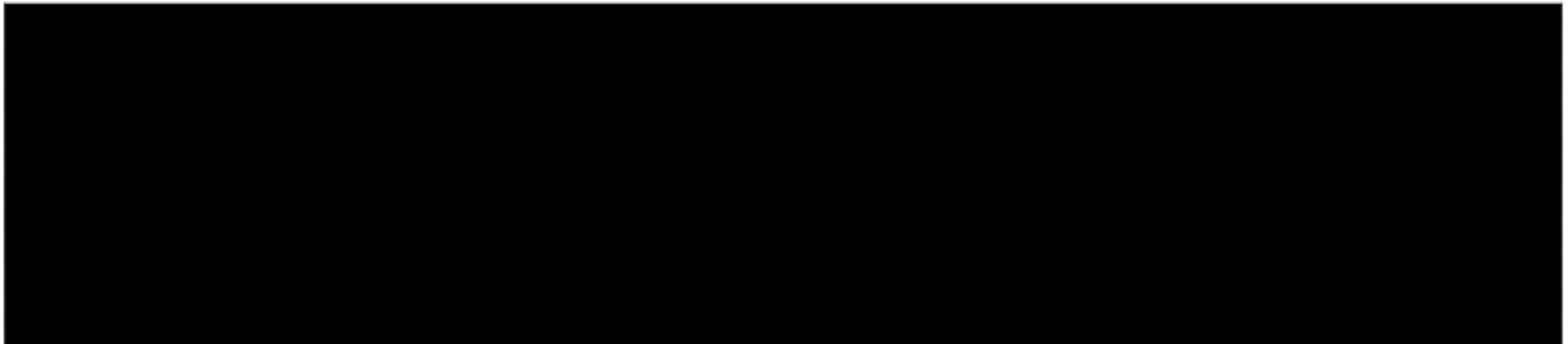
















# bingo



Listen and circle the one that you hear.

		
---	---	---

# bingo



Listen and circle the one that you hear.

# bingo



Listen and circle the one that you hear.

<p>Good hit!</p> 		<p>Sorry!</p> 
<p>Well done!</p> 		<p>Good catch!</p> 
	<p>Never mind!</p> 	<p>Nice throw!</p> 

# How to play baseball in English

このワークショップではブリティッシュ・カウンシルの小学校の英語プログラムにおいてC L I L(内容言語統合学習)を使い、5年生の授業で野球のやり方を英語で学んだケースをもとに、C L I Lの教材の作り方についてご紹介します。小学校外国語活動においては、コミュニケーションの素地を作り、積極的に話を聞いたり、話をしたりする子どもを育てることが目的になっています。ここでは、必ずしも文字を用いて書いたりする学習を取り入れず、視覚教材を中心に、マイムを使ったドリルやゲームなどを取り入れて、活動をしていきます。

子どもたちが現在持っている知識やスキルを最大限に引き延ばすために、足場を作り、手助けをしながら、教材や活動を開発することを望んでいます。参加型のワークショップなので、どうぞ活動を一緒になさり、お楽しみください。

## Some useful phrases for baseball



Nice throw!



Good hit!



Good catch!



Nearly!!



Bad luck.



Ow!


 がんばれ  
**FIGHT!**

Come on!



Oh no!!



Never mind!



Sorry!



Well done!